

「JFA・キリン 熊本復興応援 サッカー教室」を南阿蘇村立中松小学校で開催



キリングroupでは、熊本地震発災以来、「食産業の復興支援」「地域の活性化支援」「心と身体の元気サポート」という3つの幹を基に、県内各地でさまざまな支援を行っています。

2016年12月19日（南阿蘇村立中松小学校）

心と身体の元気

11月21日からスタートした「JFA・キリン 熊本復興応援 サッカー教室」は、被災した子どもたちの心と身体の元気をサポートする活動の一環で、南阿蘇村立中松小学校が4校目の開催となりました。

この日は、元サッカー日本代表の秋田豊氏をメインコーチに迎え、第1部（午前）に1～3年の35人、第2部（午後）に4～6年生33人が参加して行われました。開会式では、秋田氏が「鹿島アントラーズでキャプテンをしていました」と自己紹介すると、児童からは大きな歓声が起こりました。ウォーミングアップ後、男女各2チームに分かれて実戦形式のゲームに移り、子どもたちは笑顔の中にも真剣な表情になっていきました。時折、各チームの助っ人として秋田氏が加わり、得点シーンをアシストするとハイタッチで喜びを分かち合いました。

教室終了後は、キリンビールマーケティング株式会社熊本支社（現 キリンビール株式会社熊本支社）牧幸寛が、同小へサッカーボール、ピブス、サッカーゴール、マーカーコーンを寄贈しました。2016年に予定されていた「JFA・キリン 熊本復興応援 サッカー教室」全4回はこの日で終了しましたが、熊本地震の被災地の子どもたちへの支援活動は、2017年以降も継続的に行う予定です。

コメント①

キリン株式会社 CSV 本部 執行役員 ブランド戦略部長 坪井 純子

子どもたちのハツラツとした姿を見て、元気と笑顔をいただきました。キリングループでは東日本大震災での活動の知見を活かし、時間の経過と共に変化していくニーズに即した支援を、継続的に行っていきたいと考えています。その中で大切なのは“地域の方が大事にしていच्छるものを、大事にしていく”こと。例えば、南阿蘇村でロケを行った「午後の紅茶」のCMもそのひとつ。地元の方々が守り続ける風景を全国に発信し、少しでも多くの人が村を訪れるきっかけになればと思っています。



コメント②

キリンビール株式会社 熊本支社 熊本エリア エリアマネージャー 牧 幸寛

10月に熊本に転勤してきたばかりですが、今もブルーシートに覆われた家や傾いた家が各地に点在し、復興にはまだまだ時間がかかると感じています。ある観光地の売店に「一番搾り 熊本づくり」を陳列していた際、観光客の方から「復興支援のお手伝いは何もできないけど、商品を買って熊本に貢献したい」と声をかけていただきました。一人では何もできませんが、今後も自社商品やサッカー教室など、キリングループと熊本の皆さんとの接点が少しでも笑顔を生むきっかけになるよう行動し続けていきます。



コメント③

キリンビバレッジ株式会社 九州支社 営業担当 大石 俊介

大学時代に東日本大震災、そして今年、熊本地震を体験しました。2度の被災で感じたのは、大人が「大変だ」と過剰に反応しすぎるのが、子どもたちの笑顔を奪ってしまうということ。私自身、小学生の時からサッカーを続けていて、現在も休日にはチームのコーチをしています。運動をしている子どもたちはみんな元気で、楽しそう。仕事やサッカーを通じて、子どもたちが少しでも早く笑顔を取り戻せるよう貢献したいと思っています。



コメント④

南阿蘇村立中松小学校 校長 工藤 英治 先生

学校で大切にしている言葉は「元気」と「笑顔」。しかし、地震後は余震も続き、梅雨時期には被害の大きかった体育館が使えず、運動ができない時期もありました。さらに度重なる避難指示もあり、児童たちは心身共に疲れた様子でした。今回のサッカー教室をはじめ、全国から物心両面で多くの支援をいただいたことは本当にありがたかったです。子どもたちも常に感謝の気持ちを忘れずに、今後困った友だちや、自然災害で被災した人たちがいたら、いち早く行動し手を差し伸べられる人間に成長して欲しいと思います。



コメント⑤

公益財団法人 日本サッカー協会 事務総長 岩上 和道 様

阿蘇の雄大な自然の中で暮らしているせいか、中松小の児童はとても元気でサッカーも上手。JFA では「グラスルーツ（草の根）なくして代表の強化はありえない」との思いで活動しており、キリングループには、SAMURAI BLUE（サッカー日本代表）をはじめとした各世代代表のサポートだけでなく、地域での活動にも支援いただき心から感謝しております。子どもたちには、サッカーを通して技術面の向上はもちろん、相手を敬う気持ちやフェアプレー精神など、内面的なものも養って欲しいと考えています。



コメント⑥

元サッカー日本代表 秋田 豊 氏

報道を通じて地震の被害だけでなく、大雨や土砂災害など三重苦の状態にあると聞いていましたが、サッカーをしている子どもたちは本当に元気で笑顔で楽しんでくれました。熊本の子どもたちは芯が強いから、何事も前向きに大変な経験もプラスに変えていってくれと信じています。12月18日に行われたクラブワールドカップで活躍した植田選手（鹿島アントラーズ・熊本県立大津高出身）には、熊本人としての誇りを持って世界で戦い、その背中で熊本の子どもたちに夢と希望を与えられる存在になって欲しい。

